スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

【群馬県玉村町】
令和５年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）

自治体名	群馬県玉村町
担当課名	教育委員会学校教育課
電話番号	０２７０－６４－７７１３

１．自治体の基本情報

基本情報

人口	３５，７２８人	部活動数	３０部活
公立中学校数	２校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	部活動地域連携検討委員会を設置（年３回）
公立中学校生徒数	８４９人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み（令和５年度）

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

・町内の２つの中学校ともに生徒数、教員数は減少し続けている中、部活動数は減少しておらず、団体競技においては、単独でチームを作れない状況にある部活動も見られる（軟式野球、サッカー）。

・中学校教員の働き方に対する考え方が変化する中で、部活動顧問を引き受けることができない教員もいるため、両校ともに部活動数の適正化を進めていくとともに、地域団体との連携による生徒の受け皿を確保していく必要がある。

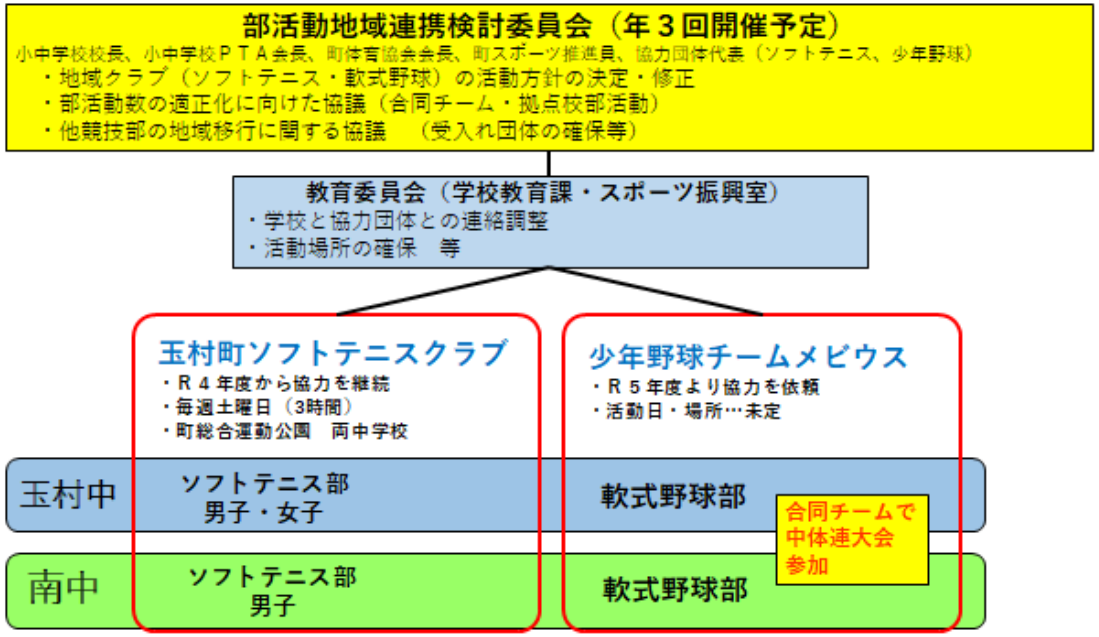
・令和４年度からソフトテニス、令和５年度より軟式野球をモデル事業として実施しているが、活動場所や設備に関することや、指導者と顧問の情報共有、連絡体制等の難しさ等が課題となっている。

・「部活動は学校のもの」という既成概念にとらわれることなく、子供たちが地域でスポーツに取り組める環境の整備及び、地域スポーツの発展という目的を周知していくことが必要である。

2．実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● **教育委員会**（学校教育課）
協力団体との連絡調整、保険加入事務、アンケート調査、学校顧問との情報共有

● **首長部局**（生涯学習課スポーツ振興係）
活動場所の確保　受け皿団体の洗い出し

年間の事業スケジュール

４月	協力団体への依頼 拠点校における実施準備（生徒・保護者への周知）	10月	第２回部活動改革検討委員会の開催 （中間まとめ、検討事項の洗い出し）
５月	参加生徒の把握　　（参加希望調査　事前アンケート実施） 年間活動計画作成　保健加入事務 地域スポーツクラブ活動の活動開始 （ソフトテニス　軟式野球	1月	生徒・保護者・顧問・指導者対象アンケート調査
		2月	第３回部活動改革検討委員会の開催 （成果報告、来年度に向けた検討課題）
６月	第１回部活動改革検討委員会の開催（活動方針の確認・修正）	3月	事業完了報告書・成果報告書等の作成

2．実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

拠点校数	2 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	ソフトテニス、軟式野球
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	5 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	玉村町立玉村中学校　玉村町立南中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	3 部活
地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス
運営主体名	玉村ソフトテニスクラブ
運営類型	市町村運営型（地域団体・人材活用型）
1 か月あたりの平均的な活動回数	月 4 回程度
指導者の主な属性	会社員、公務員
活動場所	中学校テニスコート
主な移動手段	自転車
1 人あたりの参加会費等（年額）	0 円
1 人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800円/年 指導者 1 人あたり：1,850円/年

2．実証内容と成果

取組内容

▼取組項目名：ア．関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

（ソフトテニス）週1回3時間（学校のテニスコートを活用） 指導者は3～4名
・指導者は部活動顧問経験者または、両中学校のソフトテニス部OBもいるため、各校の部活動の様子を把握しやすい。練習内容や生徒の情報等について、顧問と指導者で情報交換を行いながら実施した
（軟式野球）週1回3時間（少年団使用のグラウンドを活用） 指導者は2～3名
・両中学校の軟式野球部には少年団出身の生徒が複数名いる。また、実施前から部活動とクラブとの合同練習を行うなどの交流があったため、顧問とクラブ指導者の情報交換を行いながら活動を実施した。

取組の成果

・指導に対する負担感が減少されるとともに、休日を自分の時間として使えるようになり業務改善につながった。
・技術の上達や意欲の向上という面において、大きな成果があった。クラブでの練習内容を平日の部活動練習に取り入れるなど、生徒の主体的な取組のきっかけづくりとなった。
・2競技ともに、2つの学校の合同、ソフトテニスでは男女合同での練習ともなるため、指導者や仲間がいつもと違う環境で、刺激や緊張感を持って切磋琢磨できる環境となった
・指導に協力してくれる方の中には、両中学校の部活動のOBも複数名いたことで、地域の中で世代を超えたつながりが生まれた。

特に工夫した事項

生徒の意欲、競技力の実態把握に努め、個人の状況に応じた指導や声かけを行った。
地域クラブによる指導が勝利至上主義のものであると誤解されないように、競技の魅力や、継続することの価値、仲間や保護者への感謝など、人間性の向上を意識した指導が行われるよう、学校、クラブ、教育委員会で方針の確認を徹底した。

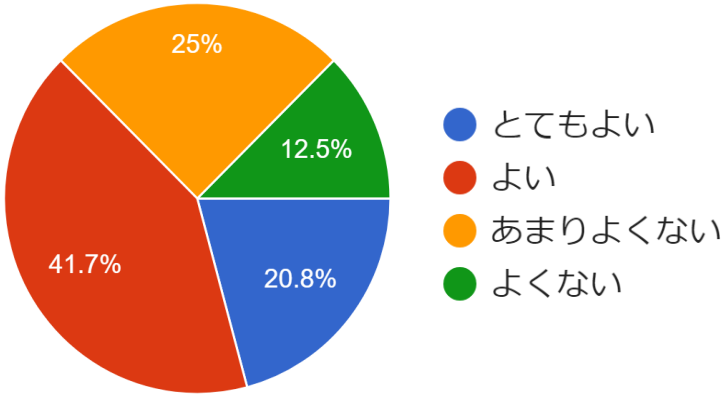
今後の課題と対応方針

保護者や受入れ団体としても「部活動」という言葉が学校と切り離せないものであるという認識が強く、大人側の「部活＝学校教育」という意識により、保護者も指導者も踏み込めない部分が多く、責任の所在があいまいになってしまう。地域移行の趣旨を、地域や保護者に対して丁寧に説明していく必要がある。

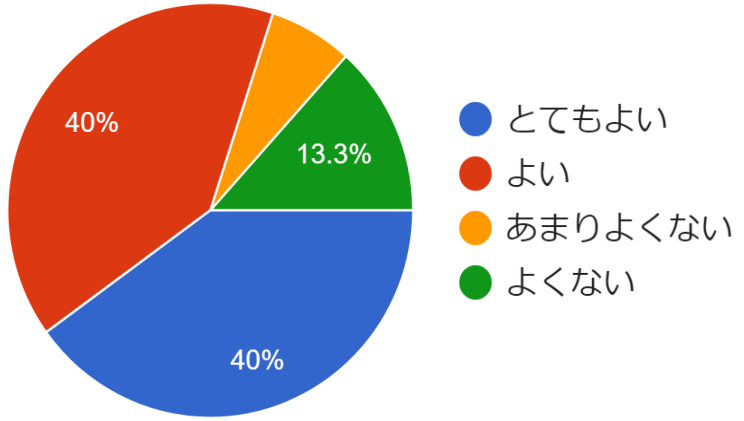
2．実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

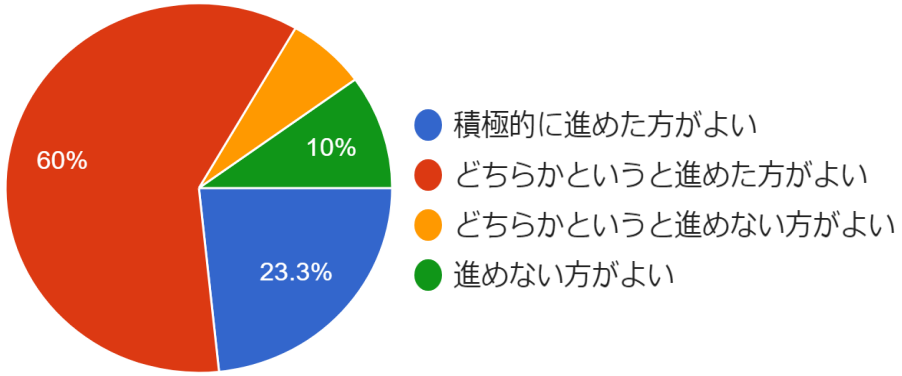
（生徒アンケート）
地域スポーツクラブで地域の指導者による指導について



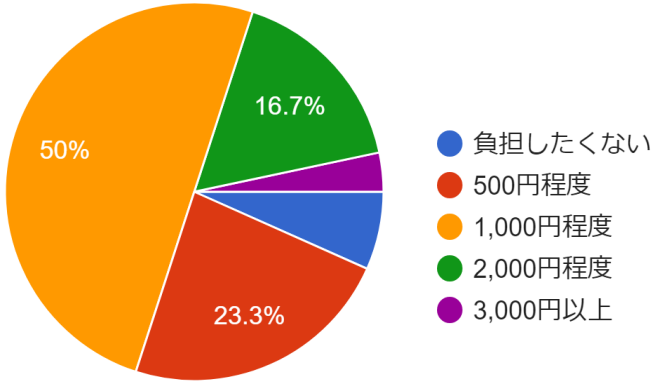
（保護者アンケート）
地域スポーツクラブで地域の指導者による指導について



（保護者アンケート）
今後地域スポーツクラブを進めることについて



（保護者アンケート）月あたりの費用負担額



2．実証内容と成果

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



軟式野球　練習の様子



ソフトテニス　練習の様子